

D-8ジャパンデザインミュージアム構想研究発表会

セミナー「ジャパンデザインを探る」パネリスト・講演者プロフィール

第1部 パネルディスカッション

暮沢剛巳 Takemi Kuresawa

1966年生まれ。デザイン批評、デザイン史。武蔵野美術大学、女子美術大学等の非常勤講師を経て、現在、東京工科大学デザイン学部教授。著書に『世界のデザイン・ミュージアム』（大和書房）、『オリンピックと万博-巨大イベントのデザイン史』（筑摩書房）、共著に『大阪万博が演出した未来』『幻の万博』（青弓社）など。

金子祐介 Yusuke Kaneko

2001年日本大学芸術学部デザイン学科卒。芝浦工業大学博士課程在籍時に「メタポリズムの未来都市展：戦後日本・今甦る復興の夢とビジョン」の企画に関わる。また2012年より文化庁国立近現代建築資料館研究補佐員となりアーカイブス運営に携わる。現在は城西国際大学環境社会学部に在職。専門：建築史及びデザイン史、理論・批評。

関 康子 Yasuko Seki

『AXIS』誌編集長を経てフリーランスエディター。2015年NPO法人建築思考プラットフォームを設立、「日本のデザインアーカイブ実態調査」を実施。主な著書に『ニッポンのデザイナー100人』『ニッポンをデザインした巨匠たち』（共著、朝日新聞社）、『倉俣史朗読本』（企画構成ADP）など。女子美術大学非常勤講師。

杉谷 進 Susumu Sugitani

1957年生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業後、大手百貨店宣伝部を経て渡欧、一年間放浪・遊学し帰国後デザインオフィス図考館を設立、現在代表取締役。ミュージアム系の環境・情報解説グラフィックやサイン計画など、空間系のデザインを中心に活動している。

洪 恒夫 Tsuneo Ko

1985年武蔵野美術大学卒業、丹青社入社。以来ミュージアム、テーマパーク、博覧会、展覧会等の施設プランニング、デザイン、プロデュースを手がける。2002年から東京大学総合研究博物館教員（現職＝特任教授）を兼務し、展示、ミュージアム等の可能性を実践的に研究。D-8ジャパン デザイン ミュージアム設立研究委員会委員長。

第2部 デザイナー・プロデューサー 喜多俊之氏講演会

喜多俊之 Toshiyuki Kita

デザイナー、プロデューサー。1969年よりイタリアと日本でデザインの制作活動を始める。イタリアやドイツ、日本のメーカーから家具、家電、ロボット、家庭日用品に至るまでのデザインで、多くのヒット製品を生む。作品の多くがニューヨーク近代美術館、パリのポンピドゥーセンターなど世界のミュージアムにコレクションされている。また、日本各地の伝統工芸・地場産業の活性化、およびクリエイティブ・プロデューサーとして多方面で活躍する。国際見本市「Living & Design」ディレクター。暮らしのリノベーション「RENOVETTA プロジェクト」を提唱。近年は、日本だけでなく、ヨーロッパ、アジアなどで、セミナーやワークショップを開く等、教育活動にも力を入れている。大阪芸術大学教授。2011年、イタリア「黄金コンパス賞（国際功労賞）」受賞。2016年、イタリア「黄金コンパス賞」の国際審査員を務める。2017年にイタリア共和国より「イタリア共和国功労勲章コンメンダントーレ叙勲。2018年、特許庁より平成30年度「知財功労賞」受賞。著書：「デザインの力」、「地場産業+デザイン」、「デザインの探険」などがある。